

## 県外派遣審判 報告書

報告者	小野寺 美帆
大会名	令和6年度関東高等学校女子バスケットボール大会 兼 第78回関東高等学校女子バスケットボール選手権大会
大会期間	令和6年(2024年)6月8日(土)・9日(日)
開催地・会場	東京都 東京女子体育大学(国立市)、アリーナ立川立飛(立川市)
審判会議・ミーティング・レクチャー等	
■審判会議 日時:2024年6月5日(水) 19:30~ 開催形式:オンライン(Zoom)	
1.挨拶 東京都バスケットボール協会 専務理事 小西 道雄氏 関東バスケットボール協会 審判委員長 平原 勇次氏	
2.指名審判員 レクチャー 村上 恵美氏(神奈川) 坂 美佑紀氏(茨城) 大坪 綾音氏(千葉)	
◆坂 美佑紀氏、大坪 綾音氏 ■質の高いゲーム運営をするためには ・正しいルールの適用 ・メカニクス、IOTの実践 ・クルー3人の共通理解 ・リスペクトが必要不可欠(クルーのことを考える・助け合う) →これらを連動させていく必要がある	
■ヘルプディフェンスについて 今までセンタープライマリーとして判定していたものをリードが判定することとなるため、背景からポイント及び注意点について、映像を交えながらお話し頂いた。	
①背景) ・リードはヘルプディフェンダーの動き(横に動いている等)を判定するアングルをとることができる ・ヘルプディフェンダーによるコンタクトはセンター(トレイル含む)からは急に視野に入るため、判定の精度が落ちる可能性がある	
②リードの考えを変えるための大きな3点について ・ヘルプディフェンダーの捉え方 ・ヘルプディフェンスレベル(フリースローレーンの一番高い位置にあるハッシュマークを結んだ線) ・ディフェンスの横のズレを把握	
③ヘルプディフェンスを判定するための9つのポイント 1) 誰のプライマリで起きたのか 2) 誰がそのディフェンスを長く捉えることができたか 3) ヘルプディフェンスレベルより下のディフェンスをリードは把握する 4) ペイント内全てがリードではない(プライマリマッチアップの判定は変わらず、プライマリレフリーが判定) 5) 推測で吹かない 6) センターは引き続きセカンダリーとして判定する 7) ペイントをルーズすることでスライスアングルをとる 8) オフェンスの肘や膝などへの判定はセンター・トレイルからのアングルがよく見える 9) トランジションではヘルプディフェンスの定義はないのでリードが1番手。コールが無い場合にはセンターがコール	

◆村上 恵美氏

「慮る（おもんばかる）」… 相手の事情や、周囲の状況について十分に思いを巡らせる・気遣う

→審判員にとっても必要不可欠なこと。

クルーの3人でベクトルを合わせ 1 試合をミスなく終わらせるために、坂氏・大坪氏からのレクチャーにもあったように正しいルールへの適用・IOT の実践・ベーシックなメカニクスを連動させてゲームに臨んで欲しい。

3. 審判割当確認

4. 連絡事項

各係からの連絡(会場・輸送・宿泊・総務・その他)

5. その他・質疑応答

**担当ゲーム（ゲーム後のコメント）**

2024年6月8日（土） 会場：東京女子体育大学

Aブロック 1回戦 八雲学園（東京）vs久喜（埼玉）

CC：工藤 雅子氏（茨城） U1：小野寺 美帆 U2：原添 さやか氏（東京）

ミーティング担当：大坪 綾音氏（指名）

■内容

クルーで協力して、1ゲームを終わらせることができた。メカニクスに関しても、特に問題なく出来ていた。

チームファウルのバランスが偏ってしまうのは仕方ない部分はあるが、少ない側のチームにファウルをコールしてもよいケースもあったので、それもクルーで協力して判定できると更に良かった。

Aブロック 2回戦 桐生商業（群馬）vs昭和学院（千葉）

CC：坂 美佑紀氏（指名） U1：三野 雅氏（東京） U2：小野寺 美帆

ミーティング担当：赤羽 沙耶氏（栃木）

■内容

ゲーム序盤では少し不安定だったメカニクスについて、ゲーム中にアジャストすることができ、判定に繋がっていた。

メンバーが変わったタイミングでも、必要なケースでコールがあったので安定したゲーム展開となっていた。

**大会を通しての感想**

この度は、本大会に派遣頂き、ありがとうございました。

指名審判の方からのレクチャーでもあったように、ゲーム中にクルーのことを意識し3人で1ゲームを終わらせること、「慮る」ということを意識してゲームに臨むことで、今までよりもクルー間でのアイコンタクトやコミュニケーションの取り方の重要性を感じました。一方で、クルーでの意識・考えを連動させることの難しさも併せて感じることができました。

また、ヘルプディフェンスの判定について、リードとして判定すること、それに伴う位置取りは他の審判員もそれぞれ悩みながらチャレンジしているように感じました。私もより意識しながら判定へ繋がっていきたくです。

今大会で得た経験を県に戻って共有するとともに、自分自身もレベルアップしてオンザコートでも育成の部分でも貢献できればと思います。

最後になりますが、大会期間中、東京都の役員および審判員の皆様、指名審判員の村上氏・坂氏・大坪氏をはじめ審判員の皆様、大変お世話になりました。ありがとうございました。